

ちょっと違う角度で まちを見るススメ。

いつもと同じ風景も、目線を変えれば新たな気付きが。まちなかで活動しているベロタクシー、ポロクル、グリーンバードのメンバーの目には、どんなまちが映っているのだろうか？

寺坂:ベロタクシーは、まず運転自体が面白いです。車道を時速 8km で進む乗り物って、あまりないですよね。周囲の人に見られるので最初は恥ずかしかったけど、慣れてくるとちょっとしたスター気分を味わえます (笑)。

三上:ポロクルに関する楽しさは、仕組みづくりの部分でしょうか。学生も多く参加していますが、まちづくりに参加しているという意識を持てる所に、面白みを感じているようです。普段の仕事は専用駐輪場の台数調整や自転車のメンテナンスがメインですけど、専用駐輪場に行ったときなんかは結構話しかけられます。

芝田:グリーンバードは、むしろ話がメインで (笑)。

寺坂:参加するには、事前の申込などが必要ですか？

芝田:いえ、やりたいと思ったら、ビブスを着ている人に話しかけてくれれば、飛び込み参加できます。私はこの活動に参加してみて、それまでは全然目に入っていなかったのですが、意外とまちなかにもゴミが多いことに気づいて。皆さんは、そ



寺坂 崇 (ベロタクシードライバー) 芝田 亜実 (グリーンバード札幌チーム) 三上 貴史 (環境NGO ezorock)

れぞれの活動を始めて気がついたことってありますか？

三上:自転車のルールを守って走ることで、自転車の魅力を改めて感じたり、まちなかの知らないお店を発見したり、ということとはよくあります。

寺坂:最初にはあったのが、まちなかの大きい通りに電線がないこと。大通や南 1 条通に立って東西を見ると、すかっと空が抜けて見える。あと、開拓時代のシンボルである星印も、意匠にしているところがたくさんあって。それを見かけると、「ここは札幌が好きなんだな」って思います。

活動から生まれる、世代を超えたコミュニケーション

三上:地下歩行空間でシェアリングについてのプレゼンテーションをしたとき、聞いていたお婆あちゃんが「感動した」って話しかけてくれて。自分たちのやっていることが、世代を超えて通じ合うものだと感じたときは、スタッフ一同感動しました。

寺坂:僕は以前、足の不自由な子に乗せたときに、乗るだけですごく喜んでくれたことが印象に残っています。喜んでもらうためには何かしなくてはと思い込んでいたけれど、いつもと同じ風景をちょっと違う角度で見ることで新たな気付きがあって、それが元気のもとになるんだなと改めて気付かされました。

芝田:ゴミ拾いをしているとお店の人が「お疲れ様」って声をかけてくれたりして、そういうコミュニケーションを通して、「やっぱり札幌っていいな。このまちが好きだな」って思えました。ベロタクシーやポロクル、そしてグリーンバードも含めて、まちのいろいろな活動を通して、ここに暮らす人たちがもっとまちのことを好きになっていってくれたらいいですね。

- ①ベロタクシー札幌 <http://velotaxi-sapporo.jp/>
- ②札幌みんなのサイクル ポロクル <http://porocle.jp/>
<http://www.ezorock.org/>
- ③グリーンバード札幌チーム <http://www.greenbird.jp/team/sapporo/>



①



②

③